

デイリースポーツ杯争奪戦 CTC杯

6/14(火) 15(水) 16(木) FI 競輪ナイト川崎 川崎スポーツ



レース展望!!

6月14日から開催される川崎競輪はF1ナイター・CTC杯、デイリースポーツ杯として行われる。

S級戦は各地区の戦力が拮抗してい接戦。地元南関地区からは当地をホームバンクにするペテラン白戸淳太郎(神奈川74期)と、近況一息だがこのパンクを得意にしている近藤隆司(千葉90期)のS1二人が中心となるが、2班選手のあっせんが多く予選からの勝ち上がり次第で大きな勢力となる。特に縦横無尽な走りが魅力の佐藤龍二(神奈川94期)や、競走得点を3ヶタに乗せてきた川越勇星(神奈川111期)は緩やかにだが成長が見られ、南関

ラインの層は厚い。北日本は力ある坂本貴史(青森94期)と新山将史(青森98期)の青森コンビを中心に、力で付けている酒井雄多(福島109期)はS級初優勝もそう遠くなさそうな実力。今期2班だが櫻井正孝(宮城100期)もいざとなれば自分で自在に戦える脚力はまだあります。北日本の戦力も南関勢に匹敵。関東勢は南関や北日本の層には及ばないが、吉田昌司(茨城111期)や小畠勝広(茨城115期)、太田龍希(埼玉117期)といった若い有望株が揃っており旋風を起こす可能性も大。遠征勢は数的不利はあるものの、気持ちの

強さで常にラインに貢献してきた竹内雄作(岐阜99期)や戦歴上位の金子貴志(愛知75期)に、不破正登(岐阜94期)の自在脚にも魅力は十分。若い土生敦弘(大阪117期)も優勝争いに加われる機動力を持つ。

A級戦の優勝候補は上杉嘉楓(福井119期)。高い機動力を持つ期待の若手。それを破るなら板垣昂(福島115期)で、持ち味發揮できれば渡り合える実力。南関勢は自力基本に器用さもある菅原裕太(静岡100期)の頑張り次第となりうる。

各ライバルに差はない波乱含み

S級
主力選手



白戸淳太郎 神奈川 74期

かつてはG1の決勝に乗るなど、長い間一线で戦ってきた地元のペテラン。来年には50歳を迎える白戸だが、まだまだF1クラスなら優勝争いに加わる実力がある。今年は膝に不安を抱える時期も多く3勝に止まっているが、きっちりとマーク選手として仕事をこなしているし、渋い活躍は続いている。地元戦について話を聞いたが、「怖いですね。自分なんて前の選手のおかげですから」と、昔から変わらぬ謙虚なコメントを出していた。しかし、それでも実際にレースになれば熱い走りを披露する。良い意味でこちらの評価を裏切るタイプだ。今シリーズは地元南関の中心として、数字以上の気持ちが入った好走に期待したい。

S級
主力選手



竹内雄作 岐阜 99期

デビュー以来10年以上が経つ竹内雄作だが、徹底先行のスタイルを崩さない中部を代表する先行屋。主導権取りに対する気持ちの強さはS級でもトップクラス。近年は成績にムラはあるものの、戦い方に大きなブレは無い。戦い方に変化をつけたい意思はあるようだが、あくまでパワフルな積極策がベース。ビッグレースはG2の共同通信社杯を制しているし、何度もG1決勝に乗っている。先行型としての実績や経験値は今シリーズ随一。まだ老け込む気配は無いし、ピークを過ぎたとも思えない。話を聞いていても志はまだまだ高く、勢いがある若手の抵抗を受けても、それを跳ね返す機動力は十分にあるだろう。

S級
主力選手



新山将史 青森 98期

青森の新山と言えば、G1戦線で戦いナルチームにも所属している弟の響平(青森107期)のイメージが強いが、兄の新山将史も存在感を増してきている。先行、まくりの自力で戦う響平とは違い、マーク戦で頭角を現している将史は、しっかりした援護もこなす事で機動型からの信頼は厚い。その証拠に5月の地元青森では、福島ラインの間に入る3番手で地元優勝を果たした。新山のレーススタイルを評価するからこそ福島勢は折り合いをつけたし、ただ地元だからだけの理由ではないだろう。新山にとっては嬉しい地元優勝だったはず。今シリーズは北日本の機動型は多く、新山にチャンスが巡って来る可能性も高そう。

A級
注目選手

菅原裕太 静岡 100期

今シリーズの南関の中核となるのは菅原裕太。近況はやや成績にムラが目立つの、自力基本に前へ攻めるスタイルで凡走は少ない。流れのなかで積極的に攻める場面になれば先行する度胸もあるし、下げられない展開になれば好位に飛びつく一手も打てる。目標にする選手にとっては頼もしい存在だ。S級での経験も豊富で流れに応じた的確な判断ができるイメージがある。今期はS級復帰への競走得点が取れるかどうかの瀬戸際。別戦に強力な若手機動型が揃っているが、優勝を狙える脚力があるし、総合力の高さなら今シリーズでも屈指だろう。

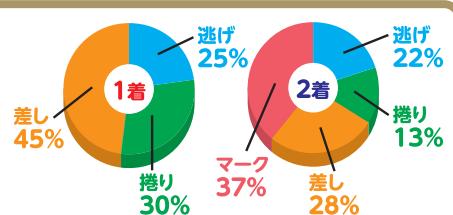
A級
注目選手

上杉嘉楓 福井 119期

まだまだ東日本では馴染みのない上杉嘉楓だが、アマチュア時代からスプリント系の種目で活躍してきた本格派。今期はS級特進に王手をかける8連勝など、A級ではトップクラスの機動力を持つ逸材だ。高いスピード能力に加えて、着實に踏める距離も長くなっている。同期で親交も深いという橋本壮史(茨城119期)に聞いた話によると、「養成所時代から物凄く強かったです。全体的に強いんですけど、最後のもうひと伸びが凄いんですよね」と話していた。間違いない今後S級で活躍するであろう若手の走りに注目していただきたい。

川崎競輪場バンクガイド

直線が長く、最終4コーナーから直線にかけてイエローライン付近が強襲コースで外を踏める選手が穴を演出する。



俺にまかせろ!

開催中
毎日
OA!



NICO NICO LIVE



競輪は適度に楽しみましょう。車券の購入は20歳になってから。

【発行】川崎競輪 【監修】川崎サイクル